

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

学校運動器検診調査票に対する親と医師の回答の一致性

和文タイトル:

学校運動器検診調査票に対する親と医師の回答の一致性

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 日本小児整形外科学会雑誌

2022 年: DOI:

筆頭著者名: 若生政憲

所属 UC 名: 甲信ユニット

目的:

エコチル調査 8 歳学童期総合健診参加者を対象として、学校運動器調査票の親と医師の回答一致性について検討すること。

方法:

2019 年 7 月から 2020 年 2 月までに山梨県内で実施の 8 歳児を対象としたエコチル調査に参加した 387 例を対象とした。事前に運動器調査票を配布し、その調査項目(側弯関連、肩・肘の痛み可動域、腰痛、片脚立位、しゃがみ込みの可否)に対する親の回答結果と健診時に整形外科医が診察して判断した結果を比較検討した。

結果:

整形外科医の判定を正しいとした場合の親の判定結果は、調査票のいずれの項目においても特異度は高いものの感度は非常に低かった。また、医師と親の回答一致性を示す κ 係数値は各項目において 0.3 未満と非常に低かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から学校運動器検診で用いられている調査票については、医師と親の判断のばらつきが非常に大きく、特異度は非常に高いものの感度が低く、スクリーニングとしての有用性に不安が残る。

結論:

今後は健診を行う医師、親いずれに対しても調査票への回答基準などの指導、統一化が望まれる。